

## 幼児期の 学びの芽生え

## 氷に興味や関心をもって関わり、考えたり 試したりする姿

5歳児 12月

### ねらい

- ・冬の自然に興味や関心を持ち、遊びや生活に取り入れて楽しむ。
- ・思いや考えを伝え合い、友達と一緒に遊ぶことを楽しむ。

### 発達・教師の援助 環境構成のポイント

- ・ビオトープに氷が張ることを楽しみに待ち、その機を逃さず、遊びに取り入れる。
- ・嬉々として遊ぶ子どもの姿を見て、冬の自然現象で十分に遊べる時間を柔軟につくる。

### 実践内容

ようやくビオトープに氷が張った。それを見つけた子どもたちは、氷を手で持ってみたり、叩いてみたり、氷の冷たさや固さに触れることを楽しんでいた。2学期の最終日で大掃除のために遊びを中断しなければならなかったが、後で遊べるように氷を残しておきたいと考えた子どもたちは容器に氷を集め、テラスまで運んできた。その時に、A児とB児が“どうしたら氷がそのままとけずに残せるか”その方法を巡って話し合っていた。

### 自然との関わり・生命尊重



**A児**

水は冷たいのだから  
水に入れておいたら  
氷はとけない

### 思考力の芽生え

### 協同性



B児案:氷 だけ



A児案:水の中に氷

継続して遊びたい気持ちを受け止めたいな。  
考えの違う2人が伝え合っている姿を  
見守りたいな。



保育者

水の中に氷を入れたら、氷はとけないと思う

氷は寒いから水が固まってできてるんだよ。だから何も入れないで  
置いておく方がいいよ

だったら、水が固まっているということは、水が氷になっているから、  
水をこの中にいっぱい入れておいたら大丈夫なんちゃうん

大丈夫じゃない。水を入れすぎてもそれがだんだんとけていくから、  
たぶん今日もあったかくなるから、今日の間にたぶんとけると思うよ

熱いものを入れたらとけるけど...

水でもとけると思うよ

だったら、どうやってとけやしないようにするの

うん、実験!

どうしたらよいか困っているな。  
こちらから提案してみよう。

実験、実験!

それなら1回試してみようか

結果は、水の中の氷はなくなっており、氷だけの容器には氷が  
残っていた。喜ぶB児の傍らでA児は何も言わず、その様子を見  
ていたが、周りの子どもたちがいなくなったところで、  
私のところへ来て、小さな声で「水、入れてた方がとけ  
てたな...」と言った。私は「やってみてよかったね」と、  
肩を抱き、一緒に保育室に戻った。



保育者

### 言葉による伝え合い



B児

氷よりも温かい水  
の中に入れてら  
とける。だから何も  
入れない方がいい

自分の言葉で粘り強く伝え  
ようとしているな。お互いの言葉を  
聞き合っている姿もあり、二人の  
良い関係性が感じられる。

クラスみんなに二人の実験  
のことを伝えて、結果を楽  
しみにしよう。

### 豊かな感性と表現

いつもなら涙を流すA児が、結果を  
受け止め、精一杯我慢している。  
A児の気持ちを考えて、クラスで結  
果を共有するのはやめておこう。

## 保育を振り返って 1年生につながるもの：好奇心、探究心、思考力の芽生え、安心を土台にした対話

子どもたちは、身近な自然と触れ合う体験を重ねながら自然への気づきや親しみを深めていく。5歳児のこの時期には、さらに好奇心や探究心をもって関わり、自分の考えたことを表現しながら、身近な事象への関心を高めていく。自分の考えを粘り強く伝えられるのは、考えは違っても相手に聞いてもらえているという安心感と二人の関係性が築かれていたからだ。自分たちのことを理解してくれる教師が傍ににいるという安心感もあっただろう。そのような安心できる関係の中でこそ、自分の思いや考えを自信をもって互いに伝え合う姿につながっていく。